

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中学生の部

奥の細道
むすびの地
大垣

令和七年九月度 入賞句一覧

投句数 千六百九十七句

特選

長町 誠司 選

蒼穹のかけらを映す水まんじゅう

大垣市 耽 嘉美（中三）

「蒼穹」とは「おおぞら」「おおぞら」のこと。蒼天とも言います。この語のもつニュアンスにより、爽やかで口当たりの良い大垣名物の「水まんじゅう」の魅力が、十分に読者に伝わります。駅や土産店のポスター、贈答品の包装紙に掲載されていても遜色のない一句だと感じました。

受験を控える作者。蒼天の志で夢に一步ずつ近づくことでしょう。

思ひ出は入道雲が持つている

大垣市 横居 寛大（中二）

「入道雲」は夏に見られる積乱雲のこと。もくもくとせり上がる様を山にたとえて、俳句では「雲の峰」などと五音で使います。この句、作者を投影した「入道雲」が、「思ひ出を持つている」と表現しています。どんな思ひ出なのかはわかりませんが、季語の「入道雲」が作者の想像を膨らませます。どんな思春期真っ只中の作者。この先入道雲を見るたびに様々な思ひ出がよみがえることでしょう。

夕立ちに負けない量を勉強に

加茂郡川辺町 土屋 龍弥（中三）

「夕立」は、夏の夕方、限られた場所に降る豪雨のこと。まるで天が決心したように急に降り出すのが特徴です。短時間で降り止んだ後の大気は涼しさを含み、夕立に打たれた町は生き返ったように生気を取り戻します。作者は、その夕立の雨量に負けないほどの勢いで勉強に取り組む決意のようです。季語である「夕立」の量感と質感を上手く活かしました。

秀逸

冷やかな風とともに見る古墳

大垣市 堀田 実乃梨（小六）

空見上げ手をのばすほど天高し

大垣市 渡邊 綾逢（中二）

溶けていくアイスクリームと巡る過去

大垣市 澤田 結（中二）

水たまり傘でつくと揺れる虹

大垣市 末谷 侑子（中二）

クワガタを買ってはみたがさわれない

大垣市 伊藤 晟太（中二）

炎天下走ってつかんだ新記録

大垣市 富田 泰成（中三）

せみの声みんなに送る応援歌

大垣市 伊藤 らむせ（中三）

シャーペン握った瞬間夏が来る

大垣市 河合 勇弥（中三）

空蟬を見ていると何かほこらしい

加茂郡川辺町 井戸 奏翔（中二）

夏の声時代と共に変わっていく

加茂郡川辺町 嶺川 千晶（中二）

入選

秋の川ゆらゆらゆれるもやいぶね
 どんぐりはぼうしかぶつて落ちてくる
 もみじの葉したにおちるとできる道
 風鈴がちりと鳴つて風運ぶ
 早すぎたピアノ発表天の川
 夏休み遊んだ時間は宝物
 夕立や雲の影消え夢のあと
 宿の庭優雅に泳ぐ錦鯉
 夕立がくるたび水がよごれてく
 仲間から受け取るバトン夏の空
 月明かり破れたポイで追う金魚
 炭酸水空にかざして流れ星
 いつもより早い涼風走るペン
 盆の月かばんでねむる問題集
 百合がゆれ夏のあの子を思い出す
 ひまわりと背比べをした小三の昼
 練習の果ててきづきし蟬時雨
 骨とりは姉にまかせて秋刀魚食べ
 夕やけがどんどんてらす君のほほ
 秋晴や悩みも全て忘れ去る

小中学生の部

大垣市	近藤 花帆（小六）
大垣市	かじ田 陽平（小三）
大垣市	川さき りおな（小三）
大垣市	市橋 春花（中二）
大垣市	栗本 結菜（中二）
大垣市	栗川 颯太（中二）
大垣市	川口 璃乃亜（中二）
大垣市	岡田 昌希（中二）
大垣市	鈴木 さよ（中二）
大垣市	渡邊 翠優（中三）
大垣市	安田 茉広（中三）
大垣市	加藤 ほの香（中三）
大垣市	平野 駆人（中三）
大垣市	高田 陽葵（中三）
大垣市	田上 摩耶（中三）
大垣市	川合 陽咲菜（中三）
大垣市	長山 紘士（中三）
加茂郡川辺町	武田 旭未（中二）
加茂郡川辺町	山下 善一（中二）
加茂郡川辺町	村山 心菜（中三）

選者吟

シーサーの大きな鼻腔夏来る

誠 司

